

研修内容

(1) 講義「自主防災組織とコミュニティづくり」

関西学院大学人間福祉学部 山泰幸 教授



「災害に強いコミュニティをつくることは可能だが、災害に『だけ』強いコミュニティはない。

災害に強いコミュニティは、防災以外の様々な面でも強い。

防災を進めるためには、気長にコミュニティづくりに取り組むことが必要。」

とし、自主防災組織のリーダーとして留意すべきことなどを講義していただいた。

(2) 講義「防災・減災と男女共同参画」

(特活)NPO政策研究所・復興庁男女共同参画班(元・神戸新聞論説委員)

相川康子 専務理事・上席政策調査官

「防災を、復旧復興までの長いスパンで考えると、女性を含め、様々な主体の参画が必要であることがみえてくる。

防災はまだまだ男の仕事と思われている。人材を有効に活用するため、防災リーダーには男女共同参画の意識を持ってもらうことが求められる。

男女共同参画は、多様な知恵・意見を出し合えるまちづくりのための第一歩」



(3) 講義「防災気象情報の利活用」

松江地方気象台 岸本正 次長



自主防災活動を行うために必要となる、異常気象時に発表される各種の気象情報の意味と、その入手や利活用について解説した。

(4) 講義「災害とボランティア活動」

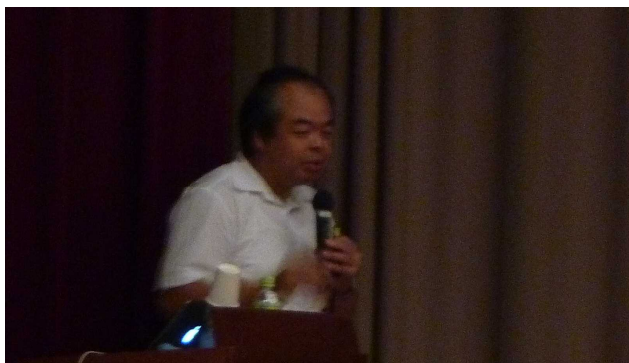
日野ボランティア・ネットワーク 山下 弘彦 氏

「災害ボランティアの活動は、家の片付けや、床下の泥だしだけではなく、被災者個々のニーズを把握し、被災者に寄り添うこと、人とのつながりが重要であること」などについて、体験事例をまじえて講義していただいた。



(5) 講義「地域防災の進め方」

山口大学大学院 瀧本浩一 准教授



「防災とは『災』を知り、『防』を考えることが重要。このためには、

- ①地域の災害を知り、考え、防災観を養うこと。(どんな災害がおこるのか、自分たちの地域にも起こるのか)
- ②その上で災害に備え、対応する。

地域を『面』で捉えて理解し、次に

『時間』の流れを考え、それを実働訓練で検証していくことが大切。」

(6) 演習「災害図上訓練 (T-D I G)」

山口大学大学院 瀧本浩一 准教授

NPO法人ぼうぼうネット 山崎隆弘 事務局長 ほか

参加者は、14の班に分かれて地図を囲み、白図に地域やハザードマップの情報を書き込むことで『面』を確認し、風水害と地震のシナリオで『面』と『時間』を考えた。

